

子宮頸がん検診(子宮頸部細胞診)とは?



子宮頸がんは、子宮の入口(頸部)の細胞が変化して発生するがんです。性交渉によりHPV(ヒトパピローマウイルス)に感染することが原因と言われています。40、50代に最も多い病気ですが、20代前後の若い方にもみられます。子宮頸がんは、初期ではほとんどが無症状ですが、確実に予防可能です。これは、定期的な子宮頸がん検診により異形成(子宮頸がんになる前の病変)の段階で発見・治療できるためです。

<子宮頸部細胞診について>

子宮頸部の細胞を採取し顕微鏡でがん細胞などの異常な細胞がないか調べる検査です。細胞採取は医師が子宮頸部の位置を目で確認しながら行います。また、高リスク型HPV感染の有無を判定するHPV検査も可能です。これにより、将来子宮頸がんが発症する危険度のある程度類推することができます。具体的には、細胞診と同様に子宮頸部から細胞を採取し検査します。

<受診にあたって>

- 20歳以上の女性は、毎年1回検診を受けましょう。
- 受診は1回のみでなく、定期的に受けることが重要です。
- 月経(生理)中は正確な検査ができない場合があるので月経を避けて検査を受けて下さい。
- 約10%前後の確率で、正確な診断ができないことがあります。

また、若年者にはHPV感染を予防するワクチンも摂取可能ですので詳しくはお電話でお問い合わせ下さい。



対話があるから医療技術が生きる
ジャパングリーンメディカルセンター